

第103回

全国高校野球

青森大会

第103回全国高校野球選手権青森大会は22、23の両日、青森市のダイシンベ

ースポールスタジアムで準々決勝4試合を行う。4強を懸けた対戦カードは、22日が八学光星―聖愛と八戸西―八工大一、23日が東奥義塾―青森山田と十和田工―弘前工。8校の今大会の戦いぶりを振り返り、各試合を展望する。

（成田亮）

22 日

光星投打隙なし

機動力光る聖愛

2019年の前回大会王者で、昨秋と今春の県大会を制した八学光星に、8年ぶりの甲子園出場を目指す聖愛が挑む。

八学光星は、2試合21得点、失点0と危なげない戦いぶりで8強に進んだ。森、横山の両エースに加え、太田、洗平ら投手陣は豊富。

打線は上位から下位までどこからでも得点できる力があり、投打に隙を見せない。

聖愛は、8強中最多の13盗塁と機動力が光る。小刻みに加点する攻撃で八学光星を崩せるか。